



絆

きずな

平成24年3月
第19号
荒川区立南千住第二中学校
校長 齊藤 進

ワサビの花よりハスの花になろう

校長 齊藤 進

平成23年度も残すところあとわずかとなりました。3年生は都立高校の合格発表も終わりほっと一息をついている生徒も多いと思いますが、これからもう一踏ん張りしなくてはならない生徒もいます。3年生全員が合格することを祈るばかりです。思えば、入学試験は面接であれ学科の試験であれ、自己の力が試されるとともに自分しか頼ることのできない過酷な状況に否応無く置かれます。おそらく多くの生徒にとっては生まれて初めての経験だったのではないのでしょうか。結果はともかく、こうした厳しい入学試験を経験することは、人間を大きく成長させることになると思います。本当に3年生はよく頑張りました。3年生にとっては卒業式までわずかとなりましたが、卒業までの一日一日を大切にしてください。たくさんの思い出が残る学校生活にしてほしいと思います。

1・2年生は、この一年間で学校生活を通して一人一人が南千住第二中生として立派に成長しました。4月に新入生を迎えますが、3年生が残してくれた大きな財産を生かし、上級生として新入生のよき手本となって様々な場面でリーダーシップを発揮してほしいと思います。3年生と同じようにそれぞれの学年の締めくくりとして、美しい形で終わることができるよう、有終の美を飾りましょう。



さて、冬が終わりを告げ、春の訪れを感じさせる頃になるとワサビは山間の澄んだ雪解け水の中で、美しく白い小さな花を咲かせます。しかし、そんな美しいワサビの花もいったん水が濁ったりするとすぐに枯れてしまいます。ハスの花はどうでしょう。上野不忍の池などに見られるように、とても澄んでいるとはいえない水の中で、実に美しい花を咲かせます。しかも自分だけでなく、周りに根を広げながら次々と見事な花を咲かせていきます。

皆さんは今までに、家庭、学校、友達など自分を取り巻く環境を嘆いたり、どうしてこんなに不幸なのだろうと思ったことはないでしょうか。何不自由なく育った人はワサビの花のように順風な人生を送るかも知れません。しかし、逆境という濁った水に出会うとくじけやすく弱いことも事実です。例えどんな不幸な環境の中に身を置こうとも濁った水の中で育つハスの花のようにたくましく生きてほしいと思います。ハスの花のすばらしさは、自分ばかりか周囲にも美しい花を咲かせることです。皆さんも自ら輝やく太陽のような、しかもあの人があると元気をもらえるとされるようプラス思考を大切に生きていって下さい。

街の先生教室（1年・職業人講話）

3月1日（木）5・6校時に街の先生教室（職業人講話）を行い職業人の方から、それぞれの職についてのお話をいただきました。最初に荒川消防署南千住出張所の福田所長から消防士になるきっかけとなったお話をしていただいた後、2人の講師の方のお話を聞きました。貴重なお話を聞きその職についての知識だけでなく、仕事をすることの意味や価値についても学習することができました。講師の皆様ありがとうございました。

【今回講話をいただいた講師の方々】



【消防服を着て】

<生徒の感想>

（一部抜粋）

職種	職業・勤務先・肩書き等	講師氏名
消防士	荒川消防署南千住出張所長	福田 清
	荒川消防署南千住出張所	山本 晃次
義肢装具士	義肢装具サポートセンター	白井 二美男
デザイナー	(有) シンボリック代表取締役	新堀 勇一
カメラマン	フードカメラマン	内田 埜音子
旅行プランナー	(株) JTB 教育第二事業部営業二課	高取 和正

新堀勇一さんへ

最初はデザイナーという少し堅い方かと思っていましたがシンボリック流のあいさつがおもしろくとても楽しく聞けました。北海道のおかゆのお店のメニューはかわいく、絵が取りはずれるデザインはすごいと思いました。あいさつの大切さがとてもよくわかりました。

高取和正さんへ

旅行のプランを1年半前から計画することを聞いてびっくりしました。私が「夢をかなえるためにはやっぱりそこそこ頭がよくないはいけないですか？」と聞いたとき「そんなことはありません。大切なのは夢をかなえる努力です」と言ってくれ、私は勇気をもらいました。ありがとうございました。

山本晃次さんへ

消防士の仕事は火を消すだけだと思っていたけれど、そのためにつらい訓練をして20kgもある重い防火服が着て消火すると聞いてびっくりしました。消防士の仕事がとても大変だということがわかりました。女性の方も現場へいくと聞いてびっくりしました。

白井二美男さんへ

義手を渡されたとき一瞬本物だと思ってびっくりしました。義手、義足は人それぞれ手や足の形が違うのですべてオーダーメイドと知りたいへんだと思いました。女性の方がヒールをはけるようにかかとの高さを調整したり、目立たないようにリアルに作ったり使う人のことを深く考えていることを知り感動しました。

内田埜音子さんへ

私は内田さんが言った言葉で印象的なものがたくさんあります。「自分が好きなこと、やって楽しいことを仕事にする」「自分の可能性を自分でつぶしてはいけない」「あきらめるのは楽し簡単、でも絶対にあきらめてはいけない」今回お話を聞き、夢について改めて考えることができました。

レイチェル・カーソンが執筆した「沈黙の春」—この本の中で彼女は、化学薬品についての警告を私たちに伝えてくれています。自然を破壊し、人体を蝕む化学薬品の乱用の恐ろしさを最初に告発したのが彼女でした。私達は、化学薬品というものに日常生活の中で頻繁に触れています。ゴキブリやハエ、ノミやダニが出れば、薬屋さんで殺虫スプレーなどを買ってくるでしょう。スーパーに行くと、野菜や果物を買えば、それには沢山の農薬が使われています。

また、化学薬品は戦争でも使用されました。第二次世界大戦後に起こった「ベトナム戦争」では「枯葉剤」という除草剤の一種が、森林を枯死させるために使用されました。これが撒布された地域では、癌・先天性異常・流産・死産などが多発したといます。枯葉剤ほどの強さはないかもしれませんが、私達が病虫害を殺すために使っている薬剤が、私達にとって安全であるとは、決して言い切れません。本当に恐ろしいことだと思います。化学物質が自然界や人の体の中に蓄積され、環境問題・公害問題にもつながっているからです。人が、自分たちの生活をより良いものにして研究し、開発した化学薬品が沢山の悲惨な結果を残しているのは悲しいことです。

レイチェル・カーソンがこの著書を発表したのは1964年、国立競技場で東京オリンピックが開催された年です。私達の両親も生まれていなかった人が多い年です。今年は2011年ですから、47年が経っています。それなのに、未だに人々は多くの化学薬品に頼って生活しているようです。

しかし、中学生になってから私は一冊の本を読んで、農薬との闘いに挑んでいらっしゃる木村秋則さんの存在を知り、少し安心しました。その本は、2009年に出版された「リンゴが教えてくれたこと」という本です。リンゴは特に病虫害が多い果物として知られています。そのため、従来から「リンゴは農薬で作る」とまで言われてしまうほど、たくさんの化学薬品が使われるそうです。結果として、土壌も汚染されてしまいます。そして家畜や人間に影響が及ぶのです。

木村さんはリンゴ栽培で身をもってそれを経験します。農薬を撒布すると顔や首筋、手や腕にもかかってしまい、強いアルカリ性による火傷を負ったり、目が腫れ上がって目が見えなくなったりしたことがあったと言います。そんな農薬から家族を守りたいという思いが、無農薬栽培を始めたきっかけでした。彼はリンゴの他にも、米の栽培もしていたそうです。木村さんは無農薬のリンゴを作るために土壌改良を試み、何年も無収入を耐え、持っていた田んぼを手放しました。まさにどん底です。それでも諦めることなく、失敗から得た知恵を生かし続けて十数年後、無農薬の「奇跡のリンゴ」を実現させたのです。

私はまだ、大きな挫折を味わったことも、どん底を経験したこともありません。強い生き方はまだできそうにありません。どちらかというと、うまくいかないことがあると逃げようとしていたり、太刀打ちできそうもないことは避けてしまったりする方です。しかし、考えてみると化学薬品に弊害があると判っているのに「仕方ないから」といって使い続ける姿勢は、そんな私の生き方に似ているとも思えます。こんな私にもできることはないか考えてみました。

環境に配慮した製品や作物を意識して購入するのはどうでしょうか。自然のものを利用した防虫剤や無農薬のリンゴを選んで買って行く。そういう人が増えていけば需要があるわけですから、生産する側もそういう品物を作ろうとするのではないのでしょうか。今、話題になっている環境問題を解決するためには、化学薬品の問題は避けて通ることはできない大きな壁だと思います。

木村さんが最後にこう書かれています。「一つずつ壁を乗り越えて階段を上がっていくごとにまた新たな壁が生まれます。どうしたら壁をクリアできるか、知恵を絞っていくところに人生の意義があります。」私は全くその通りだと思います。奇跡が起きるのを待ってはいけません。一人一人の行動力と努力が奇跡を起こすのだと思います。

活躍の記録

たくさん表彰していただきました

教育委員会褒賞

平成23年度の教育委員会褒賞が3年の3名の生徒に送られることになりました。3名はU-15ボクシング全国大会(52.5kg級)で第1位、優秀選手賞により、実用英語技能検定で2級合格により、区民体育大会中学男子200m走で大会新記録、優勝による受賞です。

東京駅伝出場

3月20日(火・祝)に味の素スタジアム・都立武蔵野の森公園 特設周回コースで開催される第3回中学生「東京駅伝」大会の荒川区選抜チームに2年女子1名が選手として選抜されました。大会は男子が42.195kmを17人で、女子は30kmを16人でチームを編成し、区市町村対抗で行われます。

荒川区教職員表彰

中陳啓司主幹教諭

中陳啓司主幹教諭(1年1組担任・理科)に平成23年度荒川区教職員表彰が贈られることが決まりました。中陳主幹教諭は本校の地域学習を研究主任の立場から校内研修会の充実や地域講演会の実施を通して推進しています。また、長年にわたり中学校バレーボール部専門委員として荒川区におけるバレーボールの指導・普及に努めました。これらの功績により表彰されることとなりました。なお、表彰式は3月12日(月)にサンパール荒川で行われます。

学校給食放射性物質測定検査

2月21日に給食の放射性物質測定を行いました。測定は首都大学東京に委託し、ヨウ化ナトリウムベクレルモニター(定量下限値は40Bq/kg)で測定したところ、「不検出」との報告を受けました。当日の献立等は次のとおりです。

献立	使用している食材
長浜風ラーメン 鶏肉と野菜の 明太子和え 果物(いちご) 牛乳	蒸し中華麺、焼き豚、しょうが、にんにく、長ねぎ、きくらげ、りんご、焼き海苔、鶏骨、豚骨、だし昆布、干し椎茸、煮干し、白ごま、こねぎ、鶏もも肉、きゅうり、だいこん、辛子明太子、いちご、牛乳

お知らせ

3月10日(土)は今年度最後の土曜授業公開日です。1年生は地域清掃を3年生は性教育講演会を行います。多くの方々の参加をお待ちしております。

また、午後3時よりPTA3月総会を図書室で開催しますので、ご協力ください。